



「くじらぐも」 思い思いの音読で

校長 渡邊 圭三

今年度、本校は「自分の考えをもち、伝え合う児童の育成～各教科・領域の特質に応じた適切な言語活動を通して」という研究主題の下、教職員の授業力向上に努めるべく校内研究を行っています。先週、1年生の「国語」の研究授業がありました。教材は、入学式で2年生の歓迎アトラクションの歌の中にも出てきた「くじらぐも」。空に浮かぶくじらぐもと担任・子供たちがやりとりを繰り返して、ファンタジー溢れる物語です。

入学以来、国語ではいくつかの物語に触れてきましたが、今回、会話文のかぎ（「」）表記を初めて確認させ、音読や書くことでも意識するようにしています。授業は、「くじらぐもに乗る子供たちの様子や言葉を考えよう」というめあてで、進んでいきました。下にあるものは当日のワークシートを一部抜粋したものです。

本時は、登場人物がくじらぐもに乗り移るために、3回ジャンプを試みている場面で、子供たちはその時の様子を考え、ワークシートに書き、周りの友達と伝え合うものでした。書く際には、文章の叙述からその根拠となる言葉を確認し、記述できるようにしていました。例えば「やっと三十センチぐらいです。」という叙述から、どんな様子だったのかを想像させていくのです。また、実際に手をつないで円い輪になってみ

ることで、その時の場面の様子をより明確にイメージできるようにしていました。そして、学習のまとめとして行われたのは、自分が想像した吹き出しの言葉を付け加えた音読。自分の考えたことや工夫したところが相手に伝わるように表現し、代表児童の発表の良さを自分の音読に生かそうとする姿が見られました。

そもそも、音読には、自分が理解しているかどうかを確かめる働きや、理解したことを表出する働きがあり、響きやリズムを感じながら言葉の意味を捉えることにも役立ちます。低学年では、明瞭な発音で文章を読むこと、ひとまとまりの語や文として読むことなどを大切にします。文字を確かめ、内容が理解できるか、どのように感じるかなどを、自分の声を自分で聞きながら、時には他の人に聞いてもらいながら把握していくのです。今週は、1年生3クラスで「くじらぐも」の音読発表会が行われています。思い思いに会話文を考え、各場面の様子を想像しながら音読し、表現する喜びを存分に味わってくださることでしょう。

光村図書「くじらぐも」下巻「くじらぐも」より

みんなは、手をつないで、
まるい わに なると、
「天まで とどけ、一、二、三。」
と、ジャンプしました。
でも、とんだのは、やっと
三十センチぐらいです。
「もつと たかく。
もつと たかく。」
と、くじらが
おうえんしました。

